

環研センターNEWS

令和2年11月号 山形県環境科学センター

今月の記事

- 【お知らせ】環境教室開催（苔玉・紙すき） / 【お知らせ】やまがたオンライン環境展 …… 1
- 【ほっと NEWS】エコ調査 / 【事業報告】市町村環境保全研修 / 【事業報告】小学生の来館… 2
- 【各部紹介】水環境部 / 【環境ミニ知識】VOC …… 3
- 【所長通信】 / 【職員自己紹介】 / 編集後記 …… 4

【お知らせ】 環境教室開催！（苔玉・紙すき）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、環境科学センターでのイベントも中止になっていましたが、窓を開けての換気や手指消毒の徹底、参加者間の距離を開けるなど、感染防止対策を徹底して、通常より小規模ながら、11月21日（土）に“環境教室（コケ玉づくり）”を開催しました。

小学校低学年の参加者も多かったのですが、初めの“水資源保全（水や森の大切さ）”のお話もしっかり聞いてくれ、また、後半の“コケ玉づくり”では大人の皆さんも楽しそうに工作していただきました。

コケ玉の周りに巻く本物の“苔”をたくさん準備して、余るかなと思っていましたが、ほとんど無くなるくらい好評でした。コケ玉に埋める“どんぐり”も根っこが出てきたものを準備しました。うまく春に芽が出てくるといいですね。

12月5日（土）には、“環境教室（紙すきハガキづくり）”も予定しています。まだ定員には達していませんが、先着順ですので、参加希望の方はお早めにお申し込みください。

山形県環境科学センター 環境教室 ←参加者募集！

コケ玉づくり・紙すきハガキづくり

山形県環境科学センターでは、環境教室として、「コケ玉づくり」と「リサイクル紙すきによるハガキづくり」を行います。ぜひ御参加ください。

1 内 容	(1) コケ玉づくり 水資源の保全（水や森の大切さ）についてお話しし、ミスゴクとどんぐり等を使ったコケ玉づくりを行います。 (2) 紙すきハガキづくり リサイクルについてお話しし、牛乳パックを使った紙すきハガキづくりを行います。
2 日 時	(1) 令和2年11月21日（土） 10時から12時まで (2) 令和2年12月5日（土） 10時から12時まで
3 会 場	村山市榎岡田3-2-1 山形県環境科学センター 環境情報・自然環境棟 実験室
4 参加人数	小学生とその保護者 各10組 (中学生以上、大人だけの参加も歓迎！)
5 費用負担	無料
6 申込方法	裏面の申込用紙に必要事項を記載のうえ、それぞれ別日の午後5時までに、FAX、電子メール又は郵送にて、下記申込先へ送付してください。(先着順になります)



（苔玉完成例）



（紙すきの様子）

【周辺図】



《申込・問合せ先》
〒995-0024
村山市榎岡田3-2-1
山形県環境科学センター
担当 環境企画部 横山、浦安
電 話 0237-52-3124
FAX 0237-52-3135
e-mail ykan-kose@pref.yamagata.lg.jp
※送付する際に★を併せてください。

【お知らせ】 やまがたオンライン環境展！



「やまがた環境展」は、地球温暖化対策や自然との共生、3R（廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用）に関する学び・啓発の場を提供することで、ライフスタイルの見直しや再生可能エネルギー等に関する理解を深め、循環型社会及び脱炭素社会の形成に向けた取り組みを推進することを目的に毎年開催されています。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、特設ウェブサイトを設け、写真、イラスト、動画等により、インターネット上で情報発信を行う「令和2年やまがたオンライン環境展」として開催されています。

「令和2年やまがたオンライン環境展」サイトでは、山形ゆかりの著名人による環境メッセージ、エコライフクイズ、公式 YouTube チャンネル、出展企業・団体の紹介等のコンテンツが発信され、令和3年1月31日までの公開となっております。

当センターでも、環境学習をテーマにしたページを開設しておりますので、ぜひご覧ください。

「令和2年やまがたオンライン環境展」サイト
<https://www.yamagata-kankyouten.com/>
 又は「やまがたオンライン環境展」で検索

ほっとNEWS ～ エコ調査 ～

化学物質環境実態調査（エコ調査）とは、環境省が全国の自治体や民間の分析機関と協力して行っている調査で、全国各地の空気、水、川や海の泥、生物などに、どのような化学物質が、どのくらい残留しているかを調べる調査です。エコ調査は昭和 49 年から現在まで毎年継続して実施されており、その結果は、環境汚染の早期発見や、化学物質対策などに役立てられています。

環境科学研究センターでは昭和 57 年からエコ調査を受託しており、近年は最上川河口の水質と底質、当センター屋上の大気について継続してモニタリング調査を実施しています。また今年度はそのほかに、最上川中流と鮭川の水質についても調査を行っており、分析を進めています。エコ調査は化学物質の残留状況を確認することが目的の一つですが、調査を実施していく中で、様々な化学物質を分析し、分析技術の向上を計ることも大きな目的だと実感しているところです。

調査結果は「化学物質と環境」という冊子に毎年まとめられており、環境省ホームページで見ることができますので、興味のある方はご覧ください。<http://www.env.go.jp/chemi/kurohon/index.html>



最上川河口での採水

【事業報告】 市町村環境保全研修会

当センターでは、環境行政を担当する県・市町村職員に対する研修の実施も担当しており、11月5日に、市町村の新任担当職員を対象とした「市町村環境保全研修会」を開催し、25名が出席しました。

研修会では、県環境エネルギー部水大気環境課の担当職員を講師に騒音・振動・悪臭に関する法令や公害苦情処理についての講義、苦情対応事例の紹介、質疑応答を行い、当センター大気環境部担当職員を講師に騒音測定の実習を行いました。

出席者においては、これまでの業務経験を踏まえて、騒音・振動・悪臭の原理や関係法令等の基礎的な知識、公害苦情対応や騒音測定の仕方等をあらためて理解することにより、今後の円滑な業務執行に役立つものになったと思われます。



【事業報告】 大久保小・山辺小来館

10月2日（金）、村山市立大久保小学校の子どもたちと先生方 75 名が、全校遠足のメニューの一つとしてセンターに訪れ、リサイクル工作（エコキャンドル、ジャイロ飛行機）を体験しました。

また、10月22日（木）には、山辺町立山辺小学校 4 学年の子どもたちと先生方 86 名が、校外学習としてセンターに訪れ、「私たちと水とのかかわり」のお話を聞くほか、リサイクル工作（エコキャンドル）、太陽光発電・燃料電池の実験や LED・白熱電球の比較実験などを体験しました。

コロナ禍の下での対応ということでしたが、班ごとにタイムスケジュールを振り分けたり、手指の消毒や換気などに注意しながら楽しく学ぶことができたと思います。

子どもたちからは、「いろんなことを“学べた”ので良かった。」「エコキャンドルを、部屋の明かりを消して、実際に家で使ってみたい」などの感想をいただき、スタッフにとってもうれしい事業となりました。

まだまだ多人数の事業については困難が伴う状況ですが、できる限りの対策を取りながら、今後とも対応をしていきたいと考えております。



各部紹介（水環境部）

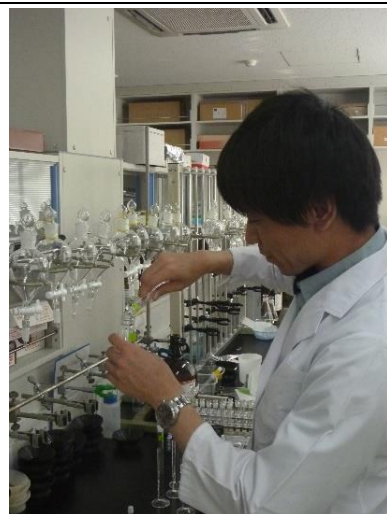
水環境部では、県内の水に関わる様々な分析や調査研究を行っています。重金属類や農薬類といった多くの水質項目について、関連する法律に基づく基準に適合しているかどうかを判定しています。基準値に適合しなかった場合には、原因を特定するための詳細な調査を、総合支庁と連携して行います。

・ 公共用水域の水質常時監視

県内の河川や海、湖沼（これらを総称して公共用水域といいます）や地下水の水質を、県の測定計画に従って定期的に分析しています。

・ 産業廃棄物や事業場排水に関する行政検査

県内の最終処分場に埋め立てられる産業廃棄物やそれらの埋め立て後に浸出した水、または特定の機器や設備を設置している事業場の排水について、基準を超えて有害な物質が含まれていないかの検査を行っています。



・ 基準超過事例に関する調査

上記の検査等で基準に適合していなかった場合には、必要に応じて現場に向かい、原因の特定や状況の改善に向けた更なる調査を行います。

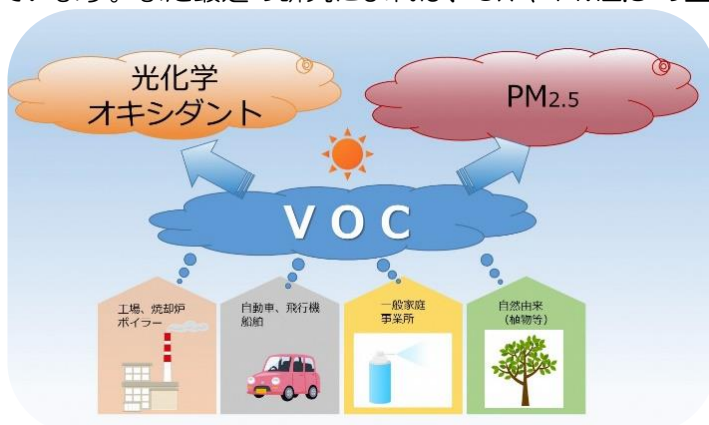
これらの他にも、県内の環境問題に関する独自研究や、国や他の自治体との共同研究といった業務にも日々取り組んでいます。県内の公共用水域の水質の状況や検査結果の概要などについては、県のホームページや当センターの所報などをチェックしてみてください。

環境ニ知識 ～ VOC ～

VOCは、揮発性有機化合物（*Volatile Organic Compounds*）の略称で、揮発性があり、ガス状となり大気中に発散しやすい有機化合物のことをいい、主に塗料、接着剤や溶剤などに含まれています。VOCはものを溶かしやすく、乾きやすい性質があり、工業的な用途で用いられることが多くあります。しかし一方で、私たちの身近な生活用品にも様々なVOCが含まれており、よく使われるものだけで数百種類の物質があるといわれています。

VOCの中には、物質そのものが人体に有害なものや、光化学オキシダント（Ox）、さらに微小粒子状物質（PM2.5）の原因となるものも含まれています。また最近の研究によれば、OxやPM2.5の生成には人工的に作り出されたVOCだけでなく、植物から放出される自然由来のVOCも関係している可能性があると言われてい

ます。
当センターでは県の調査研究事業として、主にOxが高濃度になりやすい春～夏にかけてVOCや、同じくOxの原因となる窒素酸化物等の有害物質の調査を実施し、Oxとの関連について調べています。



所長通信

樹木医は、天然記念物のような巨樹・名木から街路樹や庭木などの身近な樹木まで、傷んだり病気になった樹木の診断と樹勢回復、さらには樹病の予防や後継樹の保護育成などに携わる専門家です。

以前、初めて樹木医と名刺に刻まれたYさんにお会いし、その後、縁あって、当環境科学研究センターで一緒に過ごしたこともあります。何時だったか、我家の柿の木の葉の病気を相談したことがあり、落葉の処理法を教えていただき実践したところ、老木は今年も実をつけることが出来ました。

さて、少し前から、私は「樹木たちの知られざる生活」(パーター・ヴォールレーベン著)を所々読んでいます。この方は、樹木医ではなく森林管理官です。

私自身は残念ながら自ら語れる「森についての経験」が、多くはありません。

これまで山林との関わりは、①水道水源として(数十か所は行ったことがあります)②自然公園登山道として(蔵王山、面白山、月山、朝日連峰等)③水資源保全地域の住民説明会(3月なのに猛吹雪の夜でした)です。センターでは、バイオマスボイラーの排ガスや焼却灰検査、ペレットストーブの紹介などでしょうか。今思うと、どれもが人間中心の活動であった気がします。

この本に出合って、生きた木の集合体である森について、もっと知ることが大切だと思いました。訳者の言葉では「森林は資材の自動販売機ではない」、また作者も「森はたまたま無数の生き物に生活空間を提供しているだけの木材工場でも資源庫でもない」と言っています。山形県の約7割の面積を占める森林、その恩恵を日々受ける生物、その一員である人間。ただ自然のままに、ではなく、よりよい共存の方法を考えていくことが求められているのではないのでしょうか。

私も、かつて、スギ花粉の研究に関わっていた折、羽黒の育種園で感じた「神聖な気」や、面白山で一人杉林を育てている方の見事に手入れされ元気一杯の木々への感動を忘れず、自然への一歩を踏み出そうと思います。

これは、昨年センターの環境企画部から提供され、某職場の窓で大切にされた「コケ玉」から、ブナの芽が出て葉を広げた様子です。このかわいい姿に仕事への元気をもらったものです。



職員自己紹介

4月からセンターに配属となりました笠原といいます。陸水の酸性雨モニタリング調査と地下水調査を主に担当しています。普段は作業着もしくは白衣を着て仕事をしています。

高校生のころから化学が好きだった私にとって、白衣を着て実験や分析操作をしていると「化学してる!」という感じがして楽しいですし、好きなことを仕事にできてとても恵まれているなど感じます。一方で、自分の出した結果が山形県の環境データとして何十年と残ることを思うと、その重要性から身が引き締まる思いでもありません。山形県の素晴らしい環境を守るため、これからも知識と技術の研鑽に励み日々の業務に邁進してまいります。



編集後記

昨年、環境教室で「ミスゴケを使ったコケ玉づくり」を行っています。ほぼオリジナルの工作ですが何とかうまくいきました。この環境教室を思いついたのも、以前、湿原の調査研究にもよく行って、ミスゴケによく触れていたからでした。昔の経験が役に立ってよかったです。(^^)

《編集》山形県環境科学研究センター

住所 村山市楯岡笛田三丁目2-1 TEL 0237-52-3124 FAX 0237-52-3135

ホームページ <https://www.pref.yamagata.jp/ou/kankyoenergy/053001/>

ツイッター <https://twitter.com/tunakanyamagata>



ホームページ



ツイッター